

平成29年1月

『町内会・自治会での「見守り・支え合い」を考えるつどい』について
【 宇治東地区 】

1. 概要

[日時] 平成28年12月22日(木) 10時30分～12時00分

[会場] 東宇治地域福祉センター 2階 地域交流室

[参加者] 町内会・自治会役員(代理含む)

申込		参加	
団体数	申込者	団体数	参加者
23団体	30名	17団体	22名

宇治市地域包括支援センター	4名
宇治市社会福祉協議会	2名
宇治市文化自治振興課	5名

2. 当日の流れ

- (1) 始まりの挨拶 【文化自治振興課】
- (2) 地域懇談会の趣旨等についての説明 【文化自治振興課】
- (3) 地域で活動する組織の活動紹介 【宇治市社会福祉協議会】
【地域包括支援センター】

(4) 懇談

1組8名程度のグループに分かれ、グループワークを行いました。

文化自治振興課職員が進行役を担当し、「同じ地域住民同士でお互いの生活をどう支え合っているのか」という視点で、参加者の皆様に、地域の理想像から、日頃考えていることや課題、実際に取り組んでおられる活動等について、意見・情報交換を行いました。

※ 模造紙と付箋、ペンを用意

発言等

<Aグループ>

- ・ 個人的に、買い物に行く際には、近所の高齢者3名と一緒にいくというようなことをしているが、こういったことが大きく広がればと思っている。
- ・ 皆が参加できるイベントがあり、誘い合うことができれば良いと思う。
- ・ 声を掛けあえるというのは本当に大切だと思う。
- ・ 理想の地域として、「自分らしく暮らしていける」「町内会・自治会の繋がり(イベント

含む)がある」「相談できるところがある・ひとがいる」が挙げられる。

- ・ ボランティアの方が週1回サークルをされており、それを町内会が支援・助け合いをしている。
- ・ 町内会として、高齢者を中心に、高齢者以外も参加できるイベントを開いており、町内会員や町内会員の知り合いの中の楽器ができる方や特技がある方を呼んで、発表してもらい、あとはみんなでお茶を飲むというようなことをしている。
イベントは、月1回、年10回(年に2回休み有)開催しており、最初は大変だと思ったが、開催側も自分たちが楽しもうという姿勢でやっていると高齢者だけでなく60歳以下の人もたくさん集まるようになった。
- ・ イベント開催場所(集会所)が狭く、人数に制約があるため、活動場所が課題となっている。
- ・ 65才以上を対象とした宇治鳳凰大学では、秋に発表会をされており、見に行ったが、皆さんすごい馬力であり、文化センターで発表されておったが、このような拠点となる施設があるのが羨ましい。
- ・ 医療少年院の跡地の利用が決まっていないが、災害時も利用できる拠点施設を設けてほしい。
- ・ 普段利用している場所以外を借りようと思っても、参加者の移動手段がなく参加できないため、「どうやっていけばいいか」という声をよく聞く。
- ・ 町内会の組ごとに担当を分け、高齢者の一人暮らしの方が元気に暮らしておられるか確認している。
- ・ ごみ出しの時に声をかけたり、偶然に会った時の機会を逃さないようにしている。
- ・ 長い間、洗濯を干されていないということがあれば、民生委員へ相談したりしている。
- ・ 人が集まるポイントは、「①楽しめる」又は「②ためになる」である。
- ・ 地区によっては、有事の際にユンボを運転できる方、自家用発電機をもって仕事をしている方、奥さんが看護師である、というような情報を、防災・減災という視点で、集めて町内会長が個人情報を管理するということをしており、お互い助け合っていこうという趣旨でやれば、賛同してくれる方の方が多かった。
- ・ 災害時の安否確認カードというのを作り、声を掛け合うということが基本だが、世帯数が多い町内会のため、避難時にはこのカードを提出する取り組みを始め、近々、初めてこのカードを使って避難訓練をする。
- ・ 本人に確認したうえで、災害時の名簿を作成した。
- ・ 坂が多い立地のため、高齢者は集会所に集まることができないため、うちわに子供たちが絵付けをし、子ども達がグループとなって、希望があった高齢者の家に訪問するという活動を始めた。高齢者の方は事前に配布したお菓子を子ども達に渡してもらい、子供だけでなく、意外と高齢者に喜ばれた。

- ・ ネットで調べ簡単にできる防災対策、新聞紙でスリッパを作る等を集会所で披露しようと思っており、事前に参加希望を集計し、役員で送迎も行うこととしている。
- ・ 役員への負担が大きく、仕事としてやらなくてはいけないという感じだったが、自分たちが役員になり、すごく嫌に感じたため、楽しもうと思いついている。
- ・ 有志で、2カ月に1度、御蔵山商店街で食べ物を持ち寄るカフェをしており、活動の中で芸達者な方とも出会え、テーマを決めて話すのではなく、気軽に話して、繋がることできる。
- ・ 相談できる場所もだが、普段の生活のなかで相談できる人がいるというのもいいなと思う。
- ・ 出前体操講座というようなこともやっている。
- ・ 高齢化や空家の他、立地的に坂も多くて困っている。
- ・ 1人が町内会をやめると一緒にやめる方がいて困っている。
- ・ 会長になって、初めて自治会の大切さを実感している。
- ・ 高齢者が非常に多く、集まれる場所がないというのが問題である。
- ・ サロンや見守り活動はしているが、なかなか相談できるところがない。
- ・ 運動会等の行事がなくなってきている。
- ・ 回覧板が回らないことに困っている。
- ・ 猫問題や空家問題も困っている。

< Bグループ >

- ・ 隣家は自治会にも加入しておらず、全く付き合いもないが、最近姿が見えず、心配しているが、勝手に家の中に入ることもできず、心配している。
- ・ 孤独死等の疑いがあった場合、どういう状況であれば連絡すればいいの分からない。
- ・ 緊急の場合は、役員2、3人で警察に行き、警察官に同行してもらい、安否確認をしたことがある。
- ・ 高齢者独居、空き家での火事が心配ではあるが、町内会に未加入の場合、町内会では対応できず困っている。
- ・ 認知症等で行方不明になった場合は、家族だけでは大変である。
- ・ 顔を知っているかどうかで違いはある。
- ・ 声を掛け合うことが大切と伝えている。
- ・ 近隣住民には、声かけしても「話したくない」という方もおり、関わるのが怖い。
- ・ 回覧板を渡す際や行事への参加、役員就任等、関わることでつながりができた。
- ・ 回覧板もポストへ入れるのではなく、手渡しすることで、つながりができる場合もある。
- ・ 1人では難しいことも自治会だからこそできることもある。
- ・ 長年、会長を務めている場合であれば可能かもしれないが、毎年、会長や役員が変わるところが多いため、福祉活動等までやるのかという意見もあり、「助け合わない」と

いう思いはあるが、実際に取り組むのは難しい。

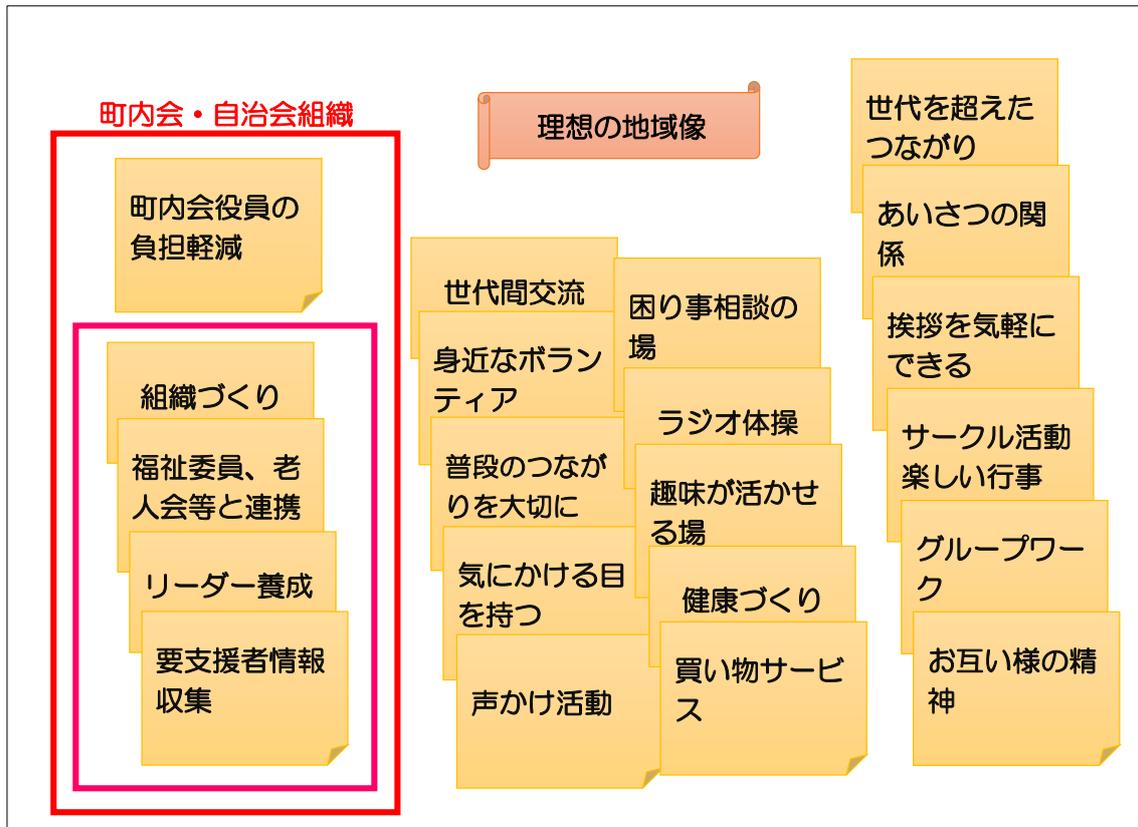
- ・ 2週間に1回サロンと毎月、会を開いているため、顔の繋がりが出来てきた。
- ・ 役をして初めて知った人もいる。
- ・ 平尾には坂が多く、地下鉄はできたが、バスの本数が減った。
- ・ 高齢者が多くなり、坂道を降りるには負担が大きく、バスの本数も減り、車も降りなさいと言われると、どうやって買い物に行けばいいのか困っている。
- ・ 大所帯のため、役員にかかる負担が大きい。
- ・ 組長等は高齢者も子育て世代にも負担が大きく、近所づきあいが難しい。
- ・ 役員のなり手不足であり、高齢者が役員をしている。
- ・ 役員のなり手がおらず、最終的にくじ引きにより決まることが多い。
- ・ 役員は大変だから、嫌な面もあるが、知らないことを知ることができ、やってよかった面もある。
- ・ 最近、地震等の災害が多く、いざというときの対処法が分からないため、初めて防災訓練をする。
- ・ 毎年、防災訓練をすることで、少しでも災害に備えることができ、住民の関心が高まるのではないかと思っている。
- ・ 未加入者にも防災訓練の案内を行い、自治会への加入案内もしている。
- ・ 水害対策は考えているが、今後は地震時の対応が課題である。
- ・ 脱会者にも役員を「する」「しない」ではなく、自治会として災害対策への取り組みの重要性について話をする。
- ・ 地域に公立集会所があるため、年間240、250件以上活用している。
- ・ 宇治市も京都市のように小学校区毎に自治連合協議会をつくり、各種団体をまとめなければならない。
- ・ 府や国に要望を出すには、1つの団体では相手にしてもらえないため、連合組織が必要である。

<Cグループ>

- ・ 喜老会や福祉委員の方がおり、個別に活動しているが、町内会との連携はできていない。
- ・ 町内会で直接、高齢者福祉に関する活動はしていない。
- ・ 他の団体や組織と連携できる仕組みがなければ、町内会だけでできることは限られる。
- ・ 支える側が80代くらいで、高齢者が高齢者をお世話している状況であり、次の世代へつながっていない。
- ・ 仕事を通して、食を通じた仲間づくりを大切にしており、一緒においしいものを食べると連帯感が生まれると考え、そういった機会を町内会にも取り入れた。
- ・ 個人的に、近隣住民同士で買い物や通院の際に車で乗せて行ったりはしている。
- ・ 町内会で自然に助け合えるようになればと思っている。

- ・ 今本当に困っているのは、買い物サービスではないかと思う。
- ・ サークル活動やそれにつながる楽しい行事があればと思う。
- ・ 最近は少なくなってきたが、小学生が夏休みに朝のラジオ体操しているのは、良い取り組みだと思う。
- ・ 昔は町内会でハイキングや餅つき等をしていたが、最近、町内会活動そのものが減ってきている。
- ・ コミュニケーションをとることが大切である。
- ・ 町内会の中で、共通の趣味をもつ者同士があつまり、つながりをつくることが出来ればと思う。
- ・ 1番大切なことは健康づくりであり、それぞれが実施している健康づくりを共有し合うことで、つながりもできる。
- ・ 行事を止めていったが、これではいけないと思い、お花見や夏祭り等を企画し、コミュニケーションの場を設けている。
- ・ 高齢化により行事を止めていったが、子ども、特に小学生がいる世帯から祭りの復活を求める声上がり、町内会が主催だが、有志のあつまりにより復活した。
- ・ 役員が義務的にするのではなく、有志により行った。
- ・ 無理な行事はやる必要はない。
- ・ 豪雨災害が起こったときに、助け合い、動いているのは地域住民だった。
- ・ 災害時は、結局は地域の方々との助け合いだった。
- ・ 災害時には、普段のかかわりが重要であり、普段の関わりがない家には情報も入らず、孤立してしまう。
- ・ 遠くの親戚より、近くの他人というのを実感した。
- ・ 防災支援やそれにつながる声かけ活動があればよい。
- ・ 声かけ運動は昔から行っており、見守りの一環ともいえる。
- ・ 声かけ運動をしており、通学時の子どもへの声かけを中心とし、大人が積極的に挨拶するようにしている。
- ・ お互い様の精神があれば、気兼ねなく、声もかけやすくなるのではないかと思う。
- ・ 挨拶ができる町内会の関係が作れればと思う。
- ・ 全ての基礎にあるものは挨拶ができることだと思う。
- ・ 高齢者の顔が見える町内、どこのだれかが分かればと思う。
- ・ 隣近所は知っていると思うが、どなたがどんな支援が必要かという情報を組織的に把握できるようにしなければならないと思っている。
- ・ 同じ町内であっても、つながりがなければ、助けを求めることはできない。
- ・ 町内会活動を通じて、つながりを強めることは難しくなってきたのではないか。
- ・ 町内会活動は、義務感が強く、受け身になりがちのため、積極的な活動へは結び付きにくいのではないか。

- ・ 継続的に取り組む必要があるため、組織づくりが重要と考える。
- ・ 会長を経験して分かったが、とても忙しく、負担が大きいため、負担軽減が必要である。
- ・ やって当たり前のようになり、苦情ばかり言われるようでは、なり手がなくなる。
- ・ 中心となる誰か、リーダー的な方の存在が必要であるため、そういった方の育成が必要となる。
- ・ ひっぱっていく方は必要だが、長期間、同じ方が会長を続けることで生まれる問題もある。
- ・ 実務は会長ではなく、会長の下に組織をつくり、別のものが行うようにした。
- ・ 役でなくても助け合う姿勢が必要である。
- ・ 世代間のつながりがしにくいと感じる。
- ・ 町内会でもっと若い人が活躍してくれればと思っている。
- ・ 町内会として、やらなさすぎも良くないが、やり過ぎも良くないため、バランスが大切である。
- ・ 若い世代は自治会に意識がなく、自治会に入らない。
- ・ 高齢者の方は、年を重ねると役を重荷に感じるという理由で脱退する。
- ・ 高齢者の方には会費を負担に感じられる方もいる。
- ・ 未加入の方こそ、支援が必要ではないかと考える。
- ・ 止む無く脱退を選んだ方もおられると思うため、加入・未加入を超えたつながりがあればと思う。
- ・ 町内会に加入・未加入に関わらず、いざとなったときは助け合うという信頼感を持っている。
- ・ 家庭の名簿を作成し、個人情報にも配慮したが、提出を拒む方もいた。
- ・ 各家庭の会員名簿を作成しているが、書ける範囲でのみとし、書きたくないという方には提出を求めないこととしている。
- ・ 管理は会長だが、緊急時を除き、開封する際には副会長の同席のもとと決めている。
- ・ 何でも個人情報だという方もおられるが、個人情報保護法に対する誤解があるため、会員に対し、個人情報について理解を得られるように、周知しなければならない。
- ・ 管理については、最終的には、お互いの信頼関係があつてこそだと思う。
- ・ 個人情報の扱いについて、色々な意見はあるが、実際に災害に合うと、本当に大事なものは何かを考えさせられる。
- ・ どの町内会も同じような状況と感じた。
- ・ 回覧板を回せない方々をどうしようかと思っている。
- ・ 50周年の記念誌を作成したが、様々な意見があり、作成時に色々と苦勞した。



<Dグループ>

- ・ 高齢化が進み、お一人の方も多くなってきた。
- ・ 町内会内で年代格差が広がっている。
- ・ 高齢者ばかりの町内会で、30代より下の世代がおらず、集まりや交流する機会がない。
- ・ 運動会も学区単位になり、町内の人に参加しにくくなった。
- ・ どうやって隣近所が助け合える関係が作れるかについて関心がある。
- ・ 若い世代と繋がっていく必要を感じる。
- ・ 家の前を通る人への声かけは個人的にはやっている。
- ・ ゴミ出しの時に、挨拶、声掛けを心掛けている。
- ・ ゴミ出しの分別ルールがわからない人がいるが、地域ぐるみで見守るようにしている。
- ・ 買い物がいきづらく、商店街があって、顔の見える関係があったらいいと思う。
- ・ 電球が切れたが交換できない、というちょっとしたことなら地域の中で助け合える。
- ・ 顔なじみにならないと助け合いができないと思っており、何とかして交流できないか考えている。

- ・ 交流の機会がなくなってきており、企画を考えないと思っている。
- ・ 価値観の違いもあり、行事をやろうと思えば、役員に負担がかかるため、軽減策が必要である。
- ・ 役員と相談して、地藏盆に高齢者を引き込もうと計画し、集会所までの道は坂がきつく高齢者は登れないので、高齢者宅へ子どもたちが手づくりのうちわを持って訪問し、挨拶をすると、お駄賃として高齢者からお菓子をもらえるという企画を実施したが、高齢者に大変好評だった。
- ・ 何か新しいことをするのは負担がかかるため、以前からある行事を利用、工夫して実施した。
- ・ 何かみんなで集まる会をしようと、年齢を問わず集えるお茶飲み会を企画中であり、車での送迎も考えている。
- ・ 自治会では秋祭りをなくしたが、若い人たちが「しましょ会」という会をつくって、そうめん流しや焼きそば大会、おみこしを出して担ぐのをやったり、おもちつきなどを行っており、30～40代が頑張っている。
- ・ 行事は極力したくないという人と意欲的な人と半々であり、それぐらいだったらできるかな、ということをつなげていきたい。一足飛びではできない。
- ・ 個人情報の提供については、行政からの依頼であってもなかなか理解してもらえない。
- ・ プライバシーの問題もあり、ほっといてくれ、と言われる。
- ・ 町内会として、どこまで踏み込めるか難しい。
- ・ 具体的なことになると、難しさがある。
- ・ 役員の意欲にもよる。
- ・ お困りごとを包括につなぐようにしている。
- ・ やらされている感じではいけない。

(5) 終了